自　序

著者が柑橘の研究に着手してから茲に滿二十五年の歳月が經過して居る,今になつて顧ると其の間貢獻の頗る少なかつた事を恥ぢ入らざるを得ぬ。若し詐らざる告白が許されるならば,私の仕事は實は之から始まるのである,故に今著作などに貴重な時を空費したくない,若しそんな暇があるならば書き上げなければならぬ報文に着手すべきであると考へるのが當然だと思ふ。しかし今まで築き上げた土臺の上に立つて柑橘學上の仕事を之から大にやると云ふならば,此の基礎工事を成る可く多くの人に見てもらつて,成る可く多くの人に其の上で仕事をしてもらつた方が,自分獨りで働くよりは斯學の殿堂を築き上げるに有利であると云ふ感じもする。又瘠せても枯れても柑橘學と云ふ科學の一分科を建設すると云ふならば,其のテキストの一冊位はあつても惡くはない,頗る未熟でも幾何かの研究家を養ひ得る學問であるならば,其の大系を他の分科の專門家にも見てもらい度い。成る程,柑橘にも之だけの科學が有るのかと分つて貰へば研究者も心强いし,又之を實地に應用する當業者にも利益である。尙ほ世間には蜜柑など獨りでに育つ樣に考へて居る門外漢も少なくはないだらうが,夫等の人々にも,柑橘が國家に至益な產業として活躍するには多くの科學者の必死の研究が必要である事を理解せしめ度い。是等の感動やら希望やらが終に半歳の努力を費して本書を成さしめるに至つたのである。

本書の上梓に際しては養賢堂主及川伍三治君の熱心な助力に負ふ處が頗る多大であつた事を深く感謝する。又附錄の執筆竝に挿圖の調製に田中諭一郎君を煩はした事,及び口繪竝に挿圖に佐久間文吾,森稱平兩畫伯を煩はした事を甚だ多しとする。以上三氏にも厚く謝意を表する。

昭和八年一月四日

臺北に於て

著 者 識

再 版 の 序

本書發刊以來既に三年半の歲月を經過したが,柑橘界の事情は其の間に多大の進展を示して居る,殊に多年の懸案であつた柑橘斑葉病問題の解決は最も大なる收穫である。又我國將來の柑橘業發展の基礎となる柑橘種類の問題に關し今や世界柑橘の再認識を必要とする。此の故に今次再版印刷に際し是等問題のために新に二講を補ひ,以て本書の使命を全からしめんと欲する次第である。

昭和十一年十月四日

北投凉風莊に於て

著 者 識

凡　　例

1. 本書の骨子は先年『農業及園藝』に執筆した『園藝講座柑橘の研究』から取つた。而し本書の大半は其後新に執筆したものである。參考文獻,附錄竝に挿圖の殆んど全部も亦新に之を作つた。

2. 著者の講座『柑橘種類學講義』(雜誌『柑橘研究』連載)は多少本書に引用したが,猶大部分は重複を避けたから,種類に關する專門的の事柄は成る可く右講座を參考せられ度い。

3. 附錄二篇は本文の足らざる處を補ふものとして有益であると思ふが,猶一篇肥料篇が加へたかつたが,其の遑がなかつた。若し版を改める機會があらば之を追加すべき事を豫約して置く。

4. 索引は此の種の講義體著書には絕對必要であると信ずるので煩を厭はず之を作成した。唯,遺憾なのは洋語索引を作製するの時間を有せなかつた事である。

5. 本書印刷の校正には多大の手數を要したが,何分著作には最近の經驗が少なかつた事と,東京と臺灣との間往復に日子を費す事が多かつたので,猶,遺憾の點が多い事と思ふ,此の點は深く讀者の諒恕を乞ふ次第である。

6. 章節の猶足らざる處,說明の不備な處,挿圖の不充分の處,參考書の不足な處等多々ある事と思ふが,夫等は改版の際に必ず改善する事としたい。猶,讀者に於ても本書の改良に就て御希望の點は遠慮なく著者まで申し出される樣に御願ひする。

嘉中 BIBLIOTHECA